

米日教育交流協議会代表 丹羽筆人

在米親子にアドバイス

日米の教育事情

補習校を続けることの意義を
考えよう

補習校では卒業式・修了式が
終わり、進級の時期を迎えてい
ます。これを機に、帰国して日
本の学校に進学する子どもがい
る一方で、退学する子どもも目

「継続は力なり」を
実感してほしい

立ちます。現地校に専念するた
めというのが、その理由の一つ
です。

具体的には、①海外に来て間
もないため現地校の学習につ
いていけない②中学や高校に進学
し宿題が増えたり課外活動が厳
しくなったりした③補習校の学
習内容が難しくついていけない
④補習校に仲のよい友達がいな
くなった—などが挙げられま
す。いずれの理由も本人にとつ
ては大きな問題ですし、親も子
どもを説得しきれなく、退学に
至ったものと思われれます。

しかし、補習校を退学すれ
ば、これらの問題は解決するの
でしょうか。生活には余裕がで
き、ある意味では解決したとい

えるかもしれませんが、失うも
ののほうが大きいのと思います。
補習校では、海外にいなが

ら、日本語で学び、日本の文化
に触れ、日本の子どもたちと交
流できます。これらは子どもが
将来、日本人や日本と関わって
生きる資質を身につけるため
とても大切なことです。近い将
来帰国する子どもにとっては、
日本の学校や企業などでの生活
が待っています。帰国予定のな
い子どもにとっても、日本人や
日本の社会と関わることは予想
されます。

現地校や補習校の学習につ
いていけないことは大変だと思
いますが、それを克服しようとい
う努力が大切です。仲のよい友

達が帰国していなくなるのは寂
しいことですが、新しい友達と
つき合うことによって新しい世
界が広がります。

私の勤務する補習校の高等部
では、幼稚園から補習校に通
い続けた生徒が、毎年数人卒業
します。その生徒は13年間、つ
まり現地校と同じ年数を補習校
でも過ごしたことになります。

卒業生に卒業時の心境を聞く
と、「上級学年になればなるほ
ど、楽しいことより辛いことの
ほうが多くなったが、ここまで
頑張ったのだから続けようと踏
ん張った。続けてきてよかった」と誇らしげに語ってくれま
す。また、「日本語での学習で
は理解できていないこともある

が、日本の社会で生きていける
程度の日本語力や教養は身につ
いている」と、補習校での学習
成果を確信しています。また、
「補習校で、日本の流行や日本
人の考え方が理解できた。ま
た、補習校ではリーダー的な存
在になることが多く、リーダー
シップが身についた」と、補習
校での生活も役立ったとも言及
しています。

「継続は力なり」の言葉通
り、日本語だけではない大きな
力となっているようです。

(今回は4月第4週号掲載)

米日教育交流協議会のウェブサイ
トにて、当コラムのバックナンバー
もお読みいただけます。

UJIEC Website: www.ujiec.org